

日中友好新聞

京都府連版

第336号

日中友好協会京都府連合会

〒602-8026 京都市上京区新町通丸太町上ル 機関紙会館ビル302号
TEL&FAX 075-256-2764 nichukyoto.com info@nichukyoto.gr.jp

この難局を力を合わせて乗り越えよう！ 第70回日中友好協会京都府連大会が開催



20年会員の表彰を受けた丹所さん。これからもよろしくお願いします。



50年会員の表彰を期に、初心に戻り、留学生との交流など地域に根差した活動を深めたいと語る左京支部事務局長の横地さん



宇野木会長、斎藤理事長、清水議長お疲れ様でした。

6月24日（日）、京都府連の事務所のある機関紙会館の5階ホールで、第70回京都府連大会がありました。最初は、物故会員の黙祷です。次に、議案書について、中国をめぐる世界情勢や、去年はどんなことをしたか、今年はどうなことをしたいかが様々に語られました。また、会員の高齢化などに伴う会員減と府連の厳しすぎる財政状況について、意見が交わされました。会員の表彰もありました。

出席者と委任状で会員数の過半数に達しているとの報告を受け、採決を行い、満場一致で、議案書は可決され、理事と常任理事のみなさんは去年に引き続きお世話になることになり、斎藤理事長、向田事務局長が引き続き選任されました。詳しくは次号でお伝えします。

(編集部)

西田さんの「重慶訪問」報告会を聞いて

宇治支部では月一回、会員のみなさんの希望を開きながらイベントをしています。六月は十六日、日曜日に一〇〇〇から府連事務所において常任理事の西田千津さんによる「重慶の旅」報告会を開催しました。奈良から長谷川テル顕彰の会の方、大阪府連の山本恒人先生、関東から出席された方も含め十三名の参加があり、事務所がいっぱいになりました。オンラインの参加も横浜からの参加も含め十四名ありました。また、重慶のエスペランチストで西田さんが重慶を訪れた際にお世話になった趙さんもwechatで参加しました。



出発前の観光ビザ取得の話から始まり、関西国際空港から厦門航空で江北国際空港への四時間の空の旅、ホテルのチェックインまで、いろいろなエピソード

を交えながら楽しく話していただきました。

二日目には重慶爆撃被害者の方と交流されました。五六隧道惨案遺址（六・五トンネルの悲劇跡）の話は、聞いていてつらくなりました。重慶爆撃で、防空壕となるはずのトンネルが人でいっぱいとなり、多くの人が窒息死しました。外に出れば空襲で殺され、中は人が一杯で圧迫される、地獄のような風景です。その後はエスペラント協会の方々との座談会をし、果敢にも現地の火鍋にも挑戦されました。

三日目は、長谷川テルが務めていた国際ラジオ局跡などを訪問されました。長江の夜景の写真はとても美しかったです。

四日目は紅岩革命記念館などを参観し、趙さん宅で手作り料理を囲まれたそうです。

五日目は人民大礼堂などを訪問され、六日目に帰国されました。

西田さんは、重慶爆撃、長谷川テル、中国のエスペランチストとの交流など今後の活動や展望についても話されました。更に、今回の重慶訪問についても話され、奈良・長谷川テル顕彰の会の事務局長からは、来年の秋に実施したいという声も上がりました。旅行会社の方も参加されていたため、次回訪問の話も盛り上がりました。

質問もたくさん出され、予定した時間がアツという間に過ぎてしまいました。

宇治支部では、皆さんの要望に応えて、これからも参加しやすい楽しい活動をしていきたいと考えています。こんなことをしてみたいということがあれば、是非ご意見をいただけるとありがたいです。

(石田)

『罪深き少年たち』感動しました

「先日は韓国映画を紹介くださりありがとうございました。早速観てきました。『罪深き少年たち』よかったです。韓国の文化開放政策で検閲禁止がなければこの映画でした。主役のファン氏はじめリアリティにあふれた作品でした。感動しました。

実際にあった事件をもとに映画化されたとのこと。がなければ紹介して下さい。 (来住徳郎)

※京都高齢者大学校に京都府連が提供している講座「東アジアの文化芸術」第3回「韓国映画産業と文化政策」(キムスヒョン・京都大学講師)を聴講した感想です。

【写真展のお知らせ】

第29回 ファインド・アイズ京都 現代・文人光画展

2024.7.24(水) ~ 7.28(日)

京都文化博物館 5階ギャラリー

入場無料

10:00~18:00 (最終日は17:00まで)

※会員の来住徳郎さんも出品されます

「仲間づくり」を大いに進めて、東アジアの平和構築に積極的役割を果たそう！
―日中友好協会第七三回全国大会が開催されました―

六月八日、九日の両日、東京両国の西のホールにおいて日本中国友好協会第七三回大会が開かれました。

大会は役員、代議員、評議員、本部事務局など110人が参加し、中国大使館、中日友好協会、日本共産党から来賓あいさつがありました。また中国国際交流協会、海江田万里衆議院議員（立憲民主党）などから祝電・メッセージが寄せられました。

討議に先立って大会議案発表後の活動について「青年の中国派遣」（十月に二十人の青年学生を中国に派遣する）、「一九四六展の開催」（米子支部）、「能登半島地震救援募金」（100万8000円を、石川支部を通じて被災者支援に充てる）などの補足提案を承けて、二十五人の代議員、評議員が両日に渡って発言し活発な討議が展開されました。

山本恒人さんは中国経済の現状について議案を補足するとして、中国は先進国型消費に転換し、輸出主導から内需中心への転換、つまり成長方式自体の転換を図りつつあると述べました。

大森猛さんは入管法の改悪によって32万人の在日中国人永住者への在日管理が強まり、永住資格取り消しといった権利侵害が起こりうることに警鐘を鳴らしました。

中村昭一（石川県支部）さんは協会の168万円の義捐金に感謝するとともに、石川県支部が多くの人

体とともに能登半島にある原発の停止をめざして運動を展開し、一時停止に追い込んだことが今次の地震で大規模な原発事故を防いだと反原発運動の重要性について述べました。

松本正さんは福岡県における中国人強制連行被害者の遺族八人を迎えての慰霊祭について語り、大城みさえさんは、沖繩を中国に対する防波堤にしないためにというテーマで発言しました。

セミナーや文化フェスタで中国を学び、あるいは中国文化を紹介する活動もたくさん紹介されました。大月さんは練馬支部の「東アジア近代史セミナー」について、木村栄一さんは東京都で「東アジア文化フェスタ」でつながりを広げている経験をそれぞれ語りました。

横地豊さんは再建三十五周年を記念して左京支部三十五年誌を作り上げた経験を語りました。

「仲間づくり」の先進経験と困難

石川文雄さんは和歌山県連の事務局体制を立て直して、太極拳の受講生に働きかけ、また「中国問題を考える学習会」に参加した人を誘うなどして自主目標の80人を達成した経験を報告。

緑豊重さんは福岡・直方支部で会員を五人プラス、読者を二十五人プラスした経験を二胡コンサートや一泊二日の合宿「学習交流会」を通じて台湾有事や日本の軍備増強といった情勢への認識を深め、人間的交流と団結を図ったことによるとまとめました。

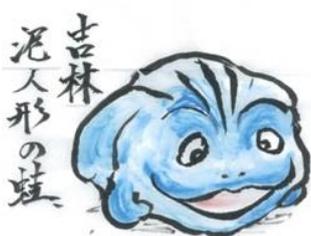
その一方で、本部の大田宣也さんは三月から展開してきた「仲間づくり」運動について、七二回大会比10%（会員634人、準会員437人）の目標に対し

て七支部連合会が七二大会比プラスの成果を上げたのに対して、京都を含む8支部連合会はマイナスであり、全体としてはマイナス80人、報告のない組織が8支部連合会という状況を報告しました。勿論これは最終的な結果であって、内訳を分析すれば大きな前進が含まれていることがわかります。例えば、昨年六月の七二大会以降、80人の会員を増やし、一昨年七一回大会からは80人を超える新会員を迎えています。ただ昨年六月から80人、一昨年からは100人超の退会者を出しているためにマイナス80人という結果になっているわけで、退会者が生まれる原因とともに、仲間づくりに成功した経験から広く教訓を導きだすことが重要だと、大田さんは指摘します。

大会は一日目夜、五年ぶりにレセプションを開催し、変面の奥義などを鑑賞しながら和やかに交流しました。二日目午後には各議案の採決が行われすべての議案が賛成多数で承認されました。

続いて各種表彰式に移り、機関紙ニュース・支部の部で左京支部が最優秀賞に、連合会の部で京都府連が特別賞にそれぞれ輝きました。

最後に井上会長をはじめとする人事体制を決定し、大会宣言を採択して閉会しました。
（斎藤）



帰国者二世支援法の制定を求めて―― 第3次国会請願行動――

協会の全国大会が行われた翌日、六月十日午前九時から午後五時まで、国会で中国帰国者二世支援法の制定を求める請願行動が衆院・参院議員会館を舞台に行われました。協会関係者、帰国者二世支援組織から88人が参院議員会館集會室に集まり、衆参の厚生労働委員8人の議員控室を訪問。訪問の趣旨を説明し、22年に成立した「帰国者支援法」は一世を対象としたものであり、当時から予想されていたように今日では二世の方々が長年にわたって言語や社会生活の壁に阻まれて真つ当な暮らしができていない現状を訴えました。二世の方々自身もそれぞれの生活の困難を語って支援を訴えました。国会開催中でもあり何人かを除いて国会議員本人とは面談できませんでしたが、応対した政策秘書たちは私たちの訴えにおおむね真剣に耳を傾けてくれました。すでに紹介議員になってくれている立憲民主、共産、国民民主、れいわ新選の議員たちからは、「一緒に頑張りますよ」「今国会は無理でも秋の臨時国会では審議できるように努力しましょう」などという励ましの言葉やエールを頂きました。

今回は今春以降に集めた七千筆の請願署名を各議員に託し、衆参両院議長に届けることを依頼しました。これまで国会に届けた署名の総数は89,166筆に達しました。引き続き十万筆をめざして活動を強めることが求められます。また新たにれいわ新選組の天島大輔議員に紹介議員になってもらった結果、紹介議員は合わせて89人になりました。

請願行動終了後、総括集會と懇親会を行いました。

参加した二世の皆さんから「緊張したが国会請願をきっかけに頑張る意欲がわいてきた」「壁は厚いが闘いはこれから」といった決意や感想が語られました。
(斎藤)



帰国者支援第三次国会請願行動に参加した皆さん

中国百科検定に挑戦！（3級の過去問から）答えは6ページ。

1 中国には省と同格の4つの直轄市があり、そのうちの1つは古代に「燕」と呼ばれた地にある。次のうちのどれか。

① 北京市 ②天津市 ③南京市 ④上海市

2 中国には西方を中心にイスラム教の民族も多い。チュルク系、モンゴル系、イラン系以外で、イスラム化した漢族を中心にイスラム教を信じる民族を一括して何と呼ぶか。

① 満州族 ②土家族 ③客家 ④回族

3 新疆ウイグル自治区は、北半分が草原で、南半分は砂漠となっている。草原と砂漠の間には大山脈が東西に走っている。この山脈は何と呼ばれているか。

① クンルン山脈 ②太行山脈 ③天山山脈 ④アルタイ山脈

※月1回土曜日に勉強会（百科検定沙龍）をしています。次回は7月13日（土）12:30～14:00 京都府連事務所で。どなたでもお気軽にご参加ください。

緑林劇

藤野 真子

筆者は教養語学の教員だが、専門講義を担当する機会もままある。たいがいは、ある演目の背景や演技的特徴を説明したのち、映像を鑑賞しながら、弁士よろしく必要な情報を補足していくスタイルをとる。

こうした講義のシラバスにおいて、具体的な演目名を記すことはあまりない。受講者の顔ぶれ……ネイティブ受講者の有無、中国文化に対する知見のレベルによって、臨機応変に対応せねばならないからである。いきおい、「霸王別姫」のようなメジャー演目、『三国演義』のような漫画や小説の題材となっている演目を中心に選ぶこととなるが、そのうち講じる筆者自身が飽きてしまう。

目先を変えるべく、緑林劇、つまり侠客の世界を描いた演目を扱おうとするのだが、これがなかなか難しい。緑林劇の代表格は『水滸伝』だが、『三国演義』に比べ、現在の日本では登場人物にもエピソードにもさほど馴染みがないようである。サブカルチャーの影響の強い昨今であれば、漫画『キングダム』で描かれる戦国時代の方が浸透していることだろう。『水滸伝』でさえこうなのだから、『三侠五義』などは言うまでもない。

それでも緑林劇にはなんとも言えない魅力がある。世界観こそ美男美女が華やかな衣装を纏って活躍する武侠ドラマと共通するが、緑林劇ではおどろお

どろしい化粧の浄や丑が侠客に扮し、よりマッチョな人間関係を結んでいく。扮装は下品と紙一重のけばけばしさで、それぞれ個性に富み、金糸銀糸の模様がびっしり織り込まれた上衣、何十個もの珠飾りが載った重そうな冠、派手な扇子、立派な得物など、いずれも彼らの自己顕示欲が存分に表される。兄弟分揃い踏みシーンなど、上衣の前立てを引つ張って、表に負けないほど派手な裏地を観客に誇示しながら舞台上に登場する。

物語もシリアス一辺倒ではない。侠客たちの前に立ちほだかるのは土地の有力者や役人だが、彼らに扮する副浄や丑は、中国演劇史を紐解けば、昔から「笑い」を担ってきた。高圧的に振舞っても、その言動はどこか間が抜けている。一例を挙げると、『水滸伝』の外伝「打漁殺家」に登場する、有力者に雇



「打漁殺家」の一場面 (出典：中国京劇像音像集萃)

われた武術師範・大教師も丑が扮する。弟子たちには威張りちらしながらも、元侠客である主人公の蕭恩の迫力と武術の前では腰砕けになる大教師の振る舞いは、まさにコントである。

関西の大学で教鞭を執る身としては、大教師の「笑い」をもっと巧みに言語化して講じたいものである。

(ふじの なおこ・関西学院大学教授)

今回はテキストのp.136の「三、文革への助走」から読み始めました。

大躍進政策の失敗の打撃のため極端に落ちこんだ国内経済の実態が明らかになるとともに一九六一年ころから経済政策についての手直し、いわゆる「調整政策」が打ち出された。それは経済政策の手直しにとどまらず共産党の統治スタイルそのものの手直しの可能性を示すものであり、一九五七年以来の六百万人以上の党员や専門家に対する不当な批判や処分が撤回された。しかしこれは同時に急進的な政策を進めた毛沢東をはじめとする幹部の責任を問うことになる。

そのため彼らは調整政策に強い不満を抱き、反対意見を繰り返して述べた。その結果一九六二年九月の第八期第十回中央委員会総会で決定された方針は経済面での調整政策とともに社会主義段階における階級闘争をも重視するという二つの相反する傾向を含んでいた。

今回はここまで読み進みましたが、いよいよこの後「文化大革命」に突入するわけで、中国が何故あのような無茶苦茶な大混乱に陥ったのか、わたしたちも深くその理由を知りたいと思いました。

この会ではテキスト以外にメンバーがネットや書物で知った事例を紹介しあうなど、自由な意見交換ができて大変楽しくなりました。次回は七月十八日(木)午後一時半から、テキストのp.140「社会主義教育運動」から読み合えます。ご参加ください。

(橋本草子)

コロナ禍の台湾研究活動道中記 (第27回) ビザ切り替え手続き (その5)

高橋 孝治

コロナ禍の中、二〇二二年に台湾に台湾政府招聘外国人研究員として渡り、台湾到着後、台湾の居留ビザ取得のため、最初に外交部ビザセンターに行ったのが、四月六日、そして健康診断の結果も含めて全ての必要書類が揃って再度外交部ビザセンターに行き、申請手続きができたのは五月三十一日のことでした。そして、やっと居留ビザが六月十七日に発行され、これを持って移民署に行き、外国人居留カード(中華民國居留證)を作成することになりました。外国人居留カードは、単なる滞在のためのビザとは異なり、台湾内で身分証明書として使えるものです。そのため、住所などの証拠も必要となるため、借りた家の契約書を持っていきました。家の契約書、居留ビザ、筆者を受入れる大学の受入許諾証、台湾政府招聘外国人研究員であることの証明書を持って行ったと記憶しています。これらの書類を居留ビザを受け取った日にそのまま移民署まで持っていき、外国人居留カードが翌日に発行されました。

これですと台湾で銀行口座も作れるし、銀行口座さえできれば、報酬が振り込まれることになりました。ここままで台湾に入居してから約三か月経過してしまいました。入境後は約一か月隔離がされており何もうまくいかなかったとしても長かったと言えます。これでやっと台湾で報酬のある普通の生活が送れることになりました。(続く)



外交部ビザセンター内で、多文化社会・台湾をピーアールするモニュメント

(2022年台湾フェローシップ採択者・(元)台湾・淡江大学 日本政経研究所 訪問研究員(2022年) / 「高橋孝治 中国」でウェブを検索！)

今後の予定

- 7/5 (金) 13:30~15:30 日中友好経済懇話会定期総会・記念講演 大西広さん「現代中国の諸課題と日中経済交流の今後を読み解く(仮)」於：京都ガーデンパレス(京都市上京区烏丸通下長者町上る)
- 7/13 (土) 12:30~14:00 百科検定沙龍(サロン) 於：府連事務所
- 7/15 関西女性交流会(8頁目参照)
- 7/29~8/3 平和のための京都の戦争展 於：立命大平和ミュージアム



書呆子 (中国語で「本の虫」という意味)
「老神介護」劉 慈欣(りゅう・じきん、リウ・ツ
ーシン)著、大森望・古市雅子訳、角川文庫、20
24年1月25日刊、280p。
表紙紙…人類の未来が詰まった短編等、2冊同時
刊行！(先月の紹介本「流浪地球」とこの本のこと)
池澤夏樹さん、中島京子さん、藤井太洋さん達は、
スケール感&想像力に絶賛の声！とあります。裏表
紙…突如現れた宇宙船から次々地球に降り立った神
は、みすばらしい姿で言った。「わしらは神じゃ。こ
の世界を創造した労に報いると思って食べ物或少し
分けてくれんかのう」(老神介護)。人工冬眠から目
覚めると、地球環境は一変していた。資源枯渇と経
済的衰退から逃れようと「南極裏庭化構想」が実行
されたのだ。「地球大砲」。短編から5編(前記2
編以外は、「扶養人類」、白亜紀往事、「彼女の眼を
連れて」です。)と、中国の第一人者である著者
によるエッセイ「われわれはSFファンである」を収
録とあります。短編の中では、「地球大砲」が、資源
枯渇と環境悪化をテーマにして、南極への関心の高
まりから、核兵器の完全廃絶、そして、大規模な深
度航行により地球の内部コアを貫通する等、現状を
一歩いや百歩を超える話にまで及んでいます。古市
雅子さんの訳者あとがきは、二〇〇三年、中国が初
めて有人飛行を実現させたことにより、一挙に国内
の関心の高まりがあったと記されています。この二
作を基礎に、三体I~IIIが壮大なつながりができた
ことがわかりました。「三体」中の上下に挑戦してい
る最中です。皆様もどうぞ劉慈欣にトライしてくだ
さい。(中本書)

百科検定答え…1①北京市 2④回族 3③天山山脈

心と心がつながって

さて、六月十六日、宇治支部で、重慶旅行の話をしました。その様子は、当日司会をされた石田さんが別記事にまとめておられますのでぜひお読みください。「いい会だった」という感想もいただきました。ただ、パソコンが動かなくなったり：ハブニングの連続で、みなさんにご苦労をおかけしました。なかでも最大の：でも嬉しいハブニングは、重慶から趙さんの飛び入り参加でした！前日の夜、「オンラインは詳しくないけど参加します」とメッセージをもらい、私は嬉しかったけど、オンライン大丈夫かな？という不安で、あまり眠れませんでした。案の定、中国はWeChatが使えないようので、急遽、微信のビデオ通話で私のスマホをかざして：ドタバタでしたが参加してもらえてよかったです。

 四月の重慶旅行に戻ります。私たちは、重慶大爆撃の被害者や支援者と面談ができました。東京在住の中国人の友人が、「中国民間対日索賠聯合会重慶分会」とつないでくれたのです。到着した日、重慶分会の鍾伝風さんが、私たちのホテルまで来て、フロントに、お菓子、とうもろこし等いっぱい言付けてくださっていて、感激しました。翌日も、朝、会の姜遺福さんと一緒に迎えに来てくださいました。



犠牲者を表すリーフ
 機死した息室で防空壕

重慶大爆撃の資料館のそばのビルの一室に、その事務所がありました。被害者、遺族、支援者：日本人三人のために、大勢の人が集まっています。幼児の時、何年にも渡って執拗に行われた日本軍の爆撃で両親を失い、自分も大けがをして孤児となつて、トラウマを一生抱えながら生きて年老いてこられた方々もいらつしやいました。

私は、日本人として、この人たちに恥ずかしくてたまらなくなり、思わず涙があふれ、「日本軍がこんなひどい目にあわせて、ごめんなさい。私は日本人だけど、これは、どうしたらよいかわからないです」と中国語で言つて、去年、戦争展で、重慶爆撃のドキュメンタリーを上映して展示もしたから、今年も展示して京都の人に知らせたいという話をしました。すると、被害者で会長の栗遠奎さんが、「京都に行きたい。招待してください」と言われました。えっ、こんなお年寄り（九十歳）が京都まで大丈夫か！とびっくりしましたが、その気持ちは、ずくと突き刺さりました。どうしたらいいのでしょうか。せめてメッセージもらうとか、なにか考えたいと思います。：何かアイデアあれば教えてください。

そして、せっかくの機会だったので、みなさん四川方言で話されていたので、私は、ほとんど何も聞き取れませんでした。趙さんが、たまに、ぼんやりしている私のために四川なまりの普通話で通訳し、竹森さんのためにエスペラントで通訳してくださいました。それを、私が岩田さんに日本語で通訳していました。そんな感じで、部屋の中の三人の日本人と、日本軍の爆撃で大変な被害を受けた重慶人たちの間は、ほとんど言葉が通じていなかったのですが、

和やかな空気が流れ、私たちは、何度も何度もしっかりと握手し、みんな記念写真を撮りました。それにしても、岩田さんはすごかったです。日本語しか使わないのに、いつのまにか、被害者の陳桂芳さん（もちろん日本語はわからない）と手をしっかりとつなぎあうほど仲良くなっていたのですから！陳さんは「いい日本人もいると知っていますよ。悪いのは（戦争責任を認めない）日本政府です」と言ってくださいました。

私は、その場から離れたくない気がしました。今でも思い出すと胸が熱くなります。温かい思いやりがあれば、言葉はそれほど必要ではありません。私にできることは、日本の中で「連帯」の輪を広げること。京都でこの歴史を伝えて、そして、重慶は少し遠いけど、来年の秋、また会いに行く予定です。みなさんも、一緒に行きましょう。（つづく）

